

平成15年度 古敷谷川、高滝ダム湖の底質調査結果について

清水 明 松尾邦彦* 小倉久子

(*現水質保全課)

1 はじめに

千葉県射撃場及び周辺では鉛弾に起因する環境汚染が発生したため、当センターでは環境生活部自然保護課からの依頼により、同課と共同で平成11年度から古敷谷川、及び平成13年度から高滝ダム湖の底質汚染状況の監視を行っている。

平成15年度は8月と2月に古敷谷川、11月に高滝ダム湖底質調査を行ったが、その分析結果について過年度に実施した調査結果も含め、以下のように考察した。

2 調査の概要

2・1 調査年月日及び調査地点

古敷谷川は平成15年8月19日と平成16年2月20日に9地点(1～6, 5R, 5L, 堀込橋下)で、高滝ダム湖は平成15年11月6日に6地点(D1～D6)で調査を行った。各調査地点を図1に示す。

2・2 分析項目

鉛含有量、強熱減量、粒度組成(レキ、細レキ、粗砂、細砂、シルトの割合)

3 結果と考察

3・1 古敷谷川

平成15年度の調査で、底質中の鉛含有量がバックグラウンド値よりも明らかに高い濃度を示していたのは西谷水路の流入地点5, 5R, 5Lで、特に平成16年2月の調査では値がさらに上昇していた。

この原因の1つとして「千葉県射撃場自然環境回復工事」の準備(貴重種草木の移植保護、工事用道路の敷設)等により、鉛汚染土が流出した可能性が考えられる。ただしこの場合、その後、沈砂池等の汚染土の流出防止策が講じられたため、これ以上の汚染拡大の恐れは小さい。

北谷水路の流入地点である地点3においては、平成13年1月までは高い濃度が検出されていたが、平成13年度及び平成14, 15年度の分析結果からは、鉛汚染の状態が改善され、工事の影響によると思われる新たな鉛汚染はなかった。これは、北谷水路に工事の開始前から設置されていたフトン籠や、暫定的に設置された沈砂池の効果によるものと考えられる。

3・2 高滝ダム湖

平成15年度の調査では14年度と比較して、底質中の鉛含有量は地点D4を除きほぼ横ばいであり、この結果からダム湖底質の鉛汚染状況は拡大していないと考えられた。

4 まとめ

平成15年度の調査の結果、古敷谷川底質では一部で鉛含有量が高い地点が見られたが、高滝ダム湖の鉛汚染状況は昨年度と同程度であることが確認された。

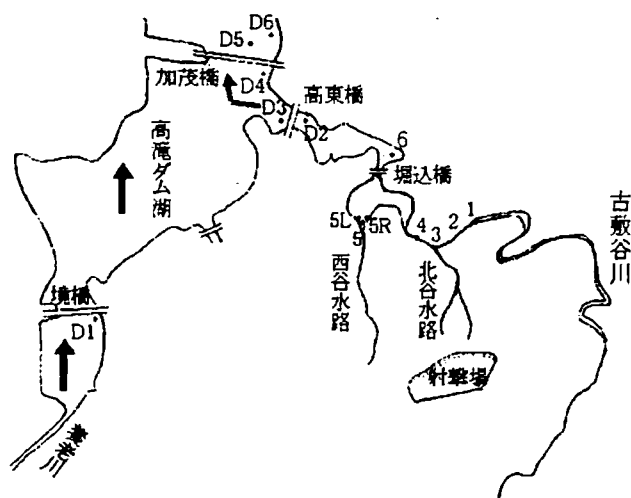


図1 調査地点